



スケラボ

となりのアーティストプロジェクト

2018-2020



と なるのアーティストプロジェクト

ごあいさつ	1
中心市街地×スケラボ	4
ショッピングモール×スケラボ	10
保育園×スケラボ	14
障がい児施設×スケラボ	18
若者×スケラボ	22
アーティスト×スケラボ	26
となりのアーティスト、チェコへ行く	30
代表より	35
活動記録	36
謝辞、奥付	37

2018年度、2019年度のスケラボの活動内容

スケラボアートキャンプ・アートサーカス

(空中音楽会、LAND FES in 沼津、360° Marimba、ENGI-MON など)
不特定多数対象の、パフォーマンスを主とした多ジャンルアートイベント

スケラボアートキャラバン

スケラボの特性を活かした幼児、児童、生徒向けのアウトリーチ活動

妄想相談所／スケラボ相談所

ユニークなアイデアを持つ人たちで語り合うトークイベント／特定の団体やクラスタを対象としたスケラボとの対話の場。

Scale Laboratory（スケラボ）は、2016年から静岡県東部地域を拠点に「ひとりでも多くの人が、生活と地続きに無理なく芸術を楽しめるローカル」を目指し、役目を終えた施設や、使われていない場所などに一時的に活動の場（＝舞台）を作り上げ、様々な芸術に関わる企画を行ってきました。

当初は、一流のアーティストの公演を気軽に見る機会を増やすことを目標に、月に1度程度、コンテンポラリーダンス、現代サーカス、演劇、狂言など、様々なジャンルの公演活動を行ってきました。

公演では必ずアーティストと観客が対話する「アフタートーク」を行いました。演者と観客の距離が近いテンポラリーな会場だからこそできることで、普段パフォーミングアーツを見慣れていない地域の人たちの、生の言葉が紡がれる場となりました。この、「対話」は私たちの活動のテーマとなりました。

次のステップとして、私たちの求める公演活動を長く続けるためには、地域の人たちとやりたいことや課題について対話する機会を持つことや、「公演に来ない（来れない）人」に目を向けることの必要性に気づきました。前者は企画プレゼン会「妄想会議（相談所）」として各地で開催し、後者は「スケラボアートキャラバン」として保育園などへのアウトリーチ活動に発展しました。

応援していただける人たちが増えるにつれ、自分たちの活動意義も少しずつ見えてきました。私たちができるのは「アート」それ自体や、演出のスパイスを加えることだけですが、その力を活かしたいと思うみなさんと繋がって協力し合うことで、相乗効果で新しい価値を作り出していけることに気づいたので。

対話して顕れた思いを具現化する演出を考える、いわば「地域のアート係」として、団体としても、地域住民であるメンバーそれぞれも、少しずつ活動の幅を広げています。

この冊子は、「となりのアーティストプロジェクト」として、スケラボがこれまで共に活動を作ってきた人や団体と、どのように関わりを持ち、何をしてきたかを記録したものです。「スケラボの使い方例」としてご覧いただければ幸いです。

2020年3月 Scale Laboratory





2019年「LAND FES in 沼津」より、奥野美和のパフォーマンス

中心市街地 と スケラボ

スケラボ × 沼津ラクーン

寂しさも、美しい。廃墟の魅力に価値を見出す



沼津ラクーン

静岡県沼津市大手町 3-4-1



web サイト

スケラボが2017年から継続的に利用している「沼津ラクーン」は、パチンコ店やカラオケ店、よしもと劇場などが入る、総合アミューズメント施設である。JR沼津駅前に立つこのビルは、かつての沼津の賑わいの象徴であった旧西武百貨店だ。

食堂街であった最上階の8階は、現在壁が剥がされ、空調も照明もない廃墟のような空間で、普段は全く使われていない。百貨店時代を知る人には隔世の感がある現在の姿だが、昼と夜で全く違う表情を見せ、沼津の街が美しく見渡せる独特の雰囲気を持っている。

この場所に美しさを見出したスケラボは、照明機器や手作りのひな壇ベンチを持ち込んで舞台をデザインし、唯一無二のパフォーマンス空間として蘇らせた。

他の地方都市と同じく、郊外の大型のショッピングモールに人が集まり、中心市街地が空洞化する中で必然的に生まれたポッカリとした広い場所に、スケラボが新たな息吹を吹き込んだことで、他階も含めアーティストのライブや展覧会、映画上映会会場などにも利用されている。



昼間の8階

(2019年「LAND FES in 沼津」より、奥野美和×坂本弘道のパフォーマンス)



夜の8階

(2019年「空中音楽会」より、SUN DRUMのパフォーマンス)

スケラボがやったこと

- パフォーミングアーツの公演
- 妄想会議 (企画プレゼン大会)
- ワークショップ・講座
- 幼児向けの公演・ワークショップ
- 展覧会



夕方の屋上

(2019年「LAND FES in 沼津」より、飯森沙百合×松本ちはやのパフォーマンス)

使われていない場所に命を吹き込む力

ここはもともと百貨店で、文化の発信地でした。

沼津ラクーンになってからの8階は、テナントが入らず長い間使われていませんでした。

8階でスケラボの川上大二郎さんからパフォーミングアーツをしたいと申し出があり、市民の皆さんとボランティアで何日間か掃除をしてくれたところから私たちの関係はスタートしました。

8階は、例えるなら荒くれ馬のような場所です。スケラボが使いこなすことでアートを発信する場になりました。

駅前にありながら、地元の人は「名前も場所も知っている」が、建物に入ったことのない人が多いのが沼津ラクーンの現状です。スケラボの公演やワークショップ等のイベントには「はじめて来たよ」という人が多くいらっしゃいます。家でもなく、職場でもない場所に、アートに関心のある人を含め幅広い人が集まり、心地よい時間、自分らしくいられる時間、不思議な時間を過ごす新しいコミュニティが生まれると感じています。

沼津駅の周辺をたくさんの人が行き交う場所にしたいと思っています。商業施設はものを売るだけ場所ではありません。ものを売るだけであれば、インターネットショッピングでいいですから。その店に足を運んでもらう理由が必要で、それは、地域が元気じゃないと成立しません。

今は、経済的なものと文化的なものが離れているように感じるので、気軽にクロスオーバーできないかなと思っています。

——— Eさん（沼津ラクーン施設管理）



2019年

ながめくらしつ「君がしまに」



2019年「空中音楽会」より、
アフタートーク



2019年「空中音楽会」より、

松岡大パフォーマンス

（映像：飯田将茂、音楽：林文彦）



スケラボ × 新仲見世商店街

妄想→現実。街をまきこむパフォーマンス



新仲見世商店街

静岡県沼津市大手町4丁目



NUMAZU DESIGN CENTER

静岡県沼津市大手町 4-5-12
うるわしビル 2F



web サイト

2016年10月、「ラクーン妄想会議」を開催した。企画のタネや使える場所を持つ人たちが、次々に自分の妄想をプレゼンし、観客と共有するスタイルのイベントである。この時は沼津の街を使ったアイデアが多数集まったのだが、空きスペースで映画の上映を行う移動式のミニシアター「スキマcinema」、人通りが少なさが課題の新仲見世商店街でそれを逆にとってダンスパフォーマンスをするアイデア「おどる商店街」、そしてゲストとして東京の街中数カ所でダンサーとミュージシャンがセッションする街歩き型の企画「LAND FES」の紹介が行われ「沼津の商店街で LAND FES をやりたいね」という思いが参加者に生まれた。

スキマcinema は会議の直後に運営が始まり、沼津ラクーンや商店街、古民家、キャンプ場などを会場に定期的な映画上映を行っている。主宰の大木真実さんは、新仲見世商店街にコミュニティの起点となるデザインオフィス「NUMAZU DESIGN CENTER」を構え、商店街にも深く関わっていった。

妄想会議から2年半後の2019年3月、商店街や市の協力も受け、3人のパフォーマーと6人のミュージシャンによる「LAND FES in 沼津」が実現した。パフォーマンスは、商店街から狩野川や廃工場へ展開し、一期一会の街とのセッションともなった。



▲ 2016年「ラクーン妄想会議」
ここがすべての始まり。

▲ 2019年「LAND FES in 沼津」
より、入手杏奈のパフォーマンス

DIY で、自分たちのまちを面白く

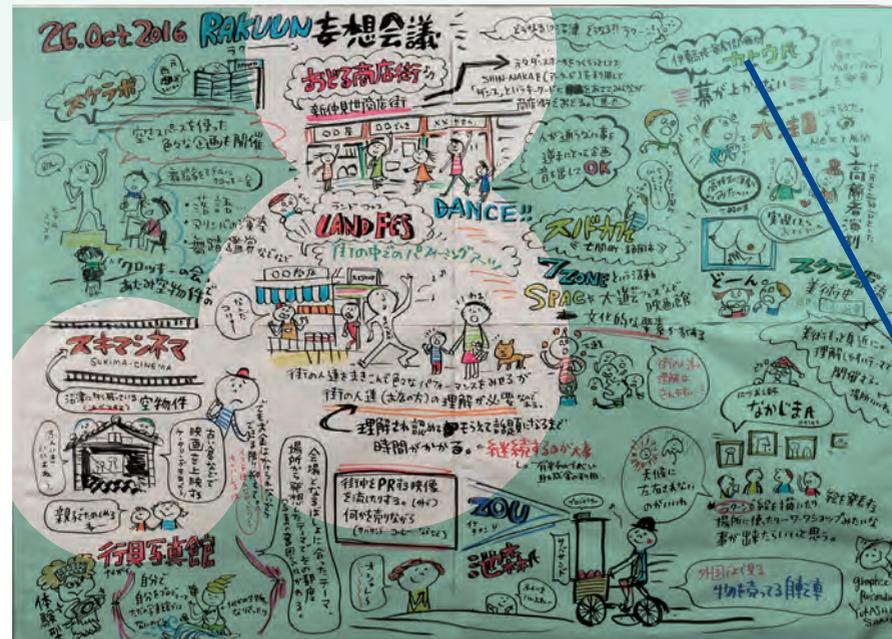
10年程前、ご縁があり沼津に嫁ぎ駅前界隈で暮らすようになり、仕事の拠点も子育てもこの界隈で暮らしのベースとなりました。沼津は暮らしやすいまちですが、一方で感性を刺激するようなおもしろさを感じられる場が日常にないと感じていました。

妄想会議でお会いした安藤さんが主催される LAND FES を、東京の仙川まで観に行きました。そこで、いつもの暮らしの中に、確かに違和感があるのだけれど、妙に馴染む異質なパフォーマンスがある景色を目の当たりにしました。実際に沼津のまちなかで開催されると、いつものまちが、普段とは全く違うおもしろさを含んだまちに見えたのです。

その視点は、LAND FES 後の今も持ち続けています。クリエイティブな感性は、このきっかけから無限に広がっています。私が続けている、スキマcinema や NUMAZU DESIGN CENTER といった、日々の暮らしの中に十人十色の感性を育めるようなきっかけの場作りは、あと10年もたたないうちに高校生になる我が子が、青春時代を過ごすまちをおもしろくしたいとの思いもあります。LAND FES in 沼津の光景も、間違いなく子供たちの記憶に刻まれ、それぞれの「おもしろい」感性が育まれているに違いありません。

—— 大木真実（グラフィックデザイナー）

2016年「ラクーン妄想会議」のグラフィックレコーディング（制作：サノユカシ）



ショッピングモール と スケラボ

スケラボ × サントムーン柿田川

多様な人々が行き交う場所での スケラボ流、ハレの日の演出



サントムーン柿田川

静岡県駿東郡清水町玉川 61-2 ほか



web サイト

サントムーン柿田川は、静岡県東部最大級の郊外型ショッピングモールで、「地域で最も愛される街づくり」をコンセプトにした地域密着の運営を行っている。2019年には、コミュニティ拠点としての役割も果たす施設であることを評価され、織研新聞社主催「2018年度 第21回ディベロッパー & テナント大賞」特別賞 地域共生賞を受賞するなど、地域の様々な文化活動との関わりを一層を強めている。

2018年、観客参加型のパフォーマンス作品「ENGI-MON (えんぎもん)」(P30-34 参照) を制作していたスケラボは、翌年に控えた海外公演のテスト公演として、不特定多数の人々が集まる場を探していたが、地域の誰もが気軽に行くことができる場所としては、これ以上ない会場がサントムーン柿田川であった。

同年9月、チンドンをベースにした陽気な音楽に乗って「おかめ」や「だるま」の着ぐるみやダンサーが店舗を練り歩き、商売繁盛を祈るパフォーマンスを行った。最後には観客を巻き込んで盆踊りの渦が生まれた。

その後も2020年の正月イベントとして大きな干支飾りの制作や大道芸人のパフォーマンス、同年3月の新棟オープン記念パフォーマンスなどで協力関係を築いている。



2018年「ENGI-MON」初演



2020年「干支だるま」は三島市内のまりあ保育園、エシカファーム (P18) も協力 (まりあ保育園にて撮影)

スケラボがやったこと

- ENGI-MON 公演
- 正月飾り (干支だるま) の制作
- 正月パフォーマンス
(干支ネズミ曲芸団〜新春パレード〜)
- 子供向けワークショップ
- 新棟オープン記念パフォーマンス



2020年「干支だるま」
(デザイン: はと)



幸せの創発とアート之力

私たちが運営するショッピングモール、サントムーン柿田川は、モノとお金の交換だけでなく、地域とつながり幸せを創発する場所になることを目指しています。近くを流れる柿田川からこんこんと湧き出る富士山の伏流水のように、地域の人が当たり前に思う環境や文化を守っていきたくと考えています。

ひとつひとつ文化イベントの開催を続けていくと、売りに換算されない価値が積み上げられていきます。モノが増えたり減ったりの一喜一憂ではなく、興味関心の連鎖で新しい世界が広がるこそが「幸せの創発」でしょう。

スケラボに「ENGI-MON」で店内を練り歩いてもらいましたが、はじめはびっくりして遠巻きに見ていた買い物のお客様も最後には一緒に踊っていたのには驚きました。

スケラボはメンバーが多様であり、企画もダンスや音楽や美術、その他の文化活動がすべて融合するところに特徴があると思います。パフォーマンスを舞台でやることだけにとらわれず、空きスペースでやってみよう、ショッピングモールでやってみようと、新しいことにトライする姿を見て、関わる人や応援する人が増えていきます。

川上さんと話しているときに「言い散らかす」「聞き散らかす」ことで、自分が考えを進めるきっかけづくりにもなっています。スケラボのアートは観客が見るだけでなく、参加することのできる「関わり代(しろ)」が大きく、幸せの創発というサントムーンのコネクトにぴったりなのです。



2020年 新棟「オアシス」オープン記念パフォーマンス



2018年「ENGI-MON」初演

——— 西島 俊則 (サントムーン柿田川 常務取締役 副支配人)





二十四節気をデザインした周囲に園活動の写真を貼り込む「ぼんぼん暦」。季節の巡りの感覚を得る過程にある子供たちの学びとして、また1年間の成長記録を一望する掲示として使われている。撮影やコラージュのワークショップも行った。



保育園 と スケラボ

スケラボ × ぼんぼん保育園

「その子らしく生きる」ために地域とつながる保育園で

長崎ぼんぼん保育園

静岡県静岡市清水区
静岡市認可保育所

柿田ぼんぼん保育園

静岡県駿東郡清水町柿田
認可施設 小規模保育事業A型

伏見ぼんぼん保育園

静岡県駿東郡清水町伏見
認可施設 小規模保育事業A型

ぼんぼんの森

静岡県沼津市大岡
認可施設 小規模保育事業A型



web サイト

ぼんぼん保育園は、静岡県東部に0歳児から2歳児まで対象の3つの小規模保育園と、静岡市で0歳児から5歳児の認可保育園を運営している。スケラボは4つの保育園に定期的に伺い、普段の保育の時間をともにしたり、保育士さんと子供の学びやアートについてざっばらんに話したりする中で、お互いを信頼する関係を築いている。

その子がその子らしく生きることを肯定することで、子供自身が幸せになり、家族や周囲を幸せにする力も育まれ、そして、保育園が開かれた地域とつながることでより成長につながる、というぼんぼん保育園の理念に共感し、アーティストの招聘や公演への招待、遊びのネタの持ち込みと実験、プロダクトデザインまで、関わりの幅を模索しながら、気軽に声を掛け合う地域の仲間となっている。



「はこさん」も初期のプロダクト。舞台監督である代表の川上がセットの土台に使う「箱馬」からヒントを得て、道具入れ、展示台、遊具、舞台など様々な使い方ができる箱を、幼児が持ちやすい大きさ、無垢の木材でデザイン・製作した。(製作:近藤正樹)



時々来る変な大人として
歓迎されています



2018年「360° marimba」にご招待。
園活動として園外へ出る機会にも積極的

スケラボがやったこと

- 定期的なコンサルテーション
- 「はこさん」「ぼんぼん暦」製作
- アーティストを呼んでのコンサートやワークショップ
- スケラボの公演への招待
- 妄想相談所への登壇依頼

アートが幸せを育む力を創造する

税理士法人に勤めていましたが、自分の子どもを預けた保育園に色々と思うことがあり、全く異文化の保育園運営をはじめました。2018年に静岡市で認可保育園を始めるにあたり、子どもの個性の表現と育成を大切にしたい保育のためにアートとコラボレーションをしたく、スクラボにアトリエスタ（美術の専門指導者）をお願いしました。

ぼんぼん保育園では体験や本物を見ることを大切にしています。興味を持つことから学びが始まり、加速します。アートは大人も子どもと一緒に楽しむことができます。そして、本物は体験の質を上げてくれます。

スクラボのいいところは、園児や保育士と対等な関係が築けていることです。先生と親との関わりが中心の子どもたちにとって、スクラボとの関わりは社会への信頼感にもつながっています。

世界的な教育思想の潮流で、地域と学校や保育園の子どもたちとの関係性が重視されています。スクラボのみなさんが定期的に来ることで、園児だけでなく園自体が外の人にかかわることに抵抗感がなくなり、積極的に社会と関わりをもつようになっています。

子どもたちの幸せを追求することを園のテーマにしています。幸せになるための方法を、諦めずたくさん学んでもらいたいと考えています。その子がその子らしく生き、自分と他者と幸せにする力を育む保育を、今後もスクラボさんと共にしていけたらと思います。

——— 大澤 豊（ぼんぼん保育園）

写真

1. 2019年、2020年 巻上公一さんのコンサート
2. 2020年 長井江里奈さんのダンスワークショップ
3. 2020年 絵の具遊び&Tシャツづくり
4. 2019年 中市真帆さん&鈴木彩の絵本読み聞かせ



障がい児施設 と スケラボ

スケラボ × NPO 法人エシカファーム

地域で育つ子供のために
地域のクリエイターができること



NPO 法人エシカファーム

静岡県三島市松本 288-19 ほか



web サイト

NPO法人エシカファームは、静岡県東部で幼児から成人までの障がいのある方のサポート・ケアをしている団体。カフェや居酒屋の運営、障がいのある人の表現をカタチにして伝えるプロジェクト「ハチエイチ」など、魅力ある活動を様々に行っている。

2018年、スケラボの「妄想相談所」で地域と子供をテーマにした際に、代表の風間さんに登壇いただいたことをきっかけに、2019年、施設利用者向けのワークショップという形で関わりがスタートした。

「障がいのある方と家族の未来を明るくしたい」と考える風間さんの思いを受け、まずは同じ地域住民であるスケラボメンバーや近くに住むアーティストがそれぞれの専門分野を活かした講座を開催した。何度も通う中でメンバーと子供たちが顔見知りになり、打ち解けていくことができた。

その後の対話の中で、利用者に向けたワークショップだけでなく、施設のスタッフと対話し、表現する力を育てるような試みが必要であることが引き出された。今後お互いに、身近な相談相手として関わり続けていきたい。

2018年「妄想相談所 in 三島」にてプレゼンテーションを行う風間さん



2019年「めざせ YouTuber！動画を撮って番組作ろう」講師：機村拓也（スケラボメンバー）
1日で撮影から YouTube へのアップロード、観賞会まで。子供たちは興味津々。



2019年「アルミホイル彫刻」講師：中村一平（造形家）
ただただ長いアルミホイルを引きずって生まれる音と形が印象的。



サントムーンの
干支だるま

スケラボがやったこと

- 妄想相談所への登壇依頼
- ワークショップ企画の立案、実施
- コンサルテーション
- アーティストの派遣
- 公演へのご招待
- 干支だるま (P11) への協力依頼

子供のあらわれを受け入れる力を育てる

知り合いの子供を預かることから障がい児支援との関わりが始まり、日々生まれる子供たちの表現をカタチにしようと雑貨やTシャツを作り、その子が大人になれば魅力的な職場が無いとカフェや居酒屋を作り……と、地域から旅立つことができない、障がいのある人たちとその家族が未来を悲観せず、明るく楽しく日々を送ることができる地域を広げることができています。

障がい児との関わりには、専門的知識に基づくしっかりとした支援が基本ですが、お洒落だったり、面白かったりといったやわらかな部分も同様に大事だと考えています。子供たちが紡ぎ出す表現をすくい上げるためには、日々関わるスタッフの面白い能力が欠かせませんが、ひとりの人が「しっかり」と「やわらか」をいいバランスで出していくことはなかなか難しいようです。

施設で子供たちと一緒にただただ遊んで、彼らのあらわれを受け入れて次のカタチにしてくれる人が必要です。この、「やわらか担当」の一角をスクラボさんが担ってくださることに期待します。子供たちが楽しい時間を過ごせれば、なんでも歓迎です。それぞれの立場で "good local" のためにできることを考えていきましょう。

——— 風間 康寛 (NPO法人エシカファーム代表)

写真

1. 2019年「アルミホイル彫刻」
2. 2019年「めざせ YouTuber ! 動画を撮って番組作ろう」
で子供が撮影した動画の一部
3. 2019年 ハチエイチとコラボした AKICHI コーヒーパッケージ
4. 2019年「コーヒーゼリーを作ろう」講師：AKICHI コーヒー
(スクラボメンバー)





若者とスケラボ

スケラボ × 高校生

変わった大人との出会いに誘い 知らない自分の扉を開く

地域で活動するスケラボにとって、感受性豊かな若い世代がアートと関わる機会を持つことは非常に重要と考えている。

しかし、個人の集団であるスケラボが若者と信頼感のある接点を持つのが難しい中、2016年の「妄想会議」で高校演劇に関わる加藤剛史さんと知り合ったことで、スケラボと若者の架け橋が生まれた。

加藤さんの教える演劇部の生徒や、アートやパフォーマンスへの興味を加藤さんに見抜かれてスカウトされた高校生が、スケラボの公演を見にきたり、舞台設営のボランティアスタッフとなったりすることで関わりが始まった。

中には常連となり、公演の鑑賞やアフタートークでアーティストと対話することを楽しむ子、裏方作業に積極的な子など、それぞれの興味や

関心が向かうところで関わり合いを続けていった。2017年と2018年には加藤さん率いる劇団の公演がスケラボのイベントの中で行われ、高校生やOGが出演した。この時参加した高校生は、卒業して県外の大学に進学したり就職したりしているが、今もゆるい繋がりを続けている。

また、2019年には新規参加の現役高校生も含めて妄想相談会（ざっくばらんな対話）の機会をもったり、その結果として2019年12月に若者主催の「妄想 LIVE！」というイベントも開催した。

今後も、普段なかなか見る機会がないプロの表現に出会う機会を作るとともに、そこに自分たちが主体的に参画することによるそれぞれの学びの機会作りまで、関わり合いを広げていきたい。

2019年「妄想相談会 U25」▶

「10代、20代をスケラボの企画に集めるには？」をテーマにトーク。SNSでのライブ配信などのアイデアが出た。この時は、演出家・劇作家・批評家の大岡淳さんが飛び入りゲスト参加。



▶ 2018年「スケラボアートキャンプ」内にて「加藤剛史仕事変えるってよ演劇祭②河原乞食：女子会。旗揚げ公演『解体されゆくアントニン・レーモンド建築 旧体育館の話』の上演。

2019年「妄想 LIVE！」

「妄想相談会」を受けての発表会。

自分の「押し」（好きなもの）をプレゼンする会に。LINEで同時実況中継も。Twitterを見て訪れた沼津が舞台のアニメ『ラブライブ』ファンが飛び入り参加する場面も。



スケラボがやったこと

- 発表機会の提供
- 妄想相談会 U25
- 舞台設営のお手伝い要請
- 妄想 LIVE の開催
- 若者向けの料金設定



2020年「ダンスワークショップ」(講師：長井江里奈)
スケラボアートキャラバンとして、2校の高校演劇部で身体表現ワークショップを行う。

アートを媒介に可能性を育む、地域の学び舎

学校には限界がある。そこで何かも学べる筈もない。ことにアートやら演劇は絶望的だ。先進諸国でほぼ唯一、義務教育で演劇を学ばぬこの国。アートと若者の隔たりはやがて、アートと日本との隔たり、日本と世界との隔りに広がると常々危惧している。

スケラボは突然現れた希望だ。地域から生まれて社会を斬り結ぶアートの可能性を感じて、私は高揚する。世界レベルの先鋭性も、土着性も地域性もごちゃまぜに、スケラボでは、可能性に満ちた本質的な芸術体験が待っている。シーンの第一線にいる方のパフォーマンス。トークや間近で見られるその仕事振り。会場選びも秀逸で、地域の営みと伴走し、地域を再発見する機会として、まちづくりとアートがいつもゆるやかに関係を結ぶ。スケラボは県東部で私がずっと待っていた、コミュニティ・アートの萌芽だった。

これは、若者こそが知るべき、体験すべきと思った。東京への盲目的な憧れを語る若者を見てきた。舞台系の学校へ無邪気に飛び込んで、音信不通になる若者を見てきた。そうじゃない可能性を地域で示せないことが私はいつも幽痒かった。

何校かの高校演劇部コーチを任される身であった私は、高校生に熱っぽくスケラボの現場を周知する。しぶとく紹介し続ける内に、何人かがスケラボへとやって来た。知らない現場に飛び込んでみる、最初の一步がまずは嬉しかった。スケラボ体験後の彼女らは、必ず私に報告してくれた。誰も興奮気味に語るのだ。「わからないけれどすごかった!わからないけどたのしかった!!」。

スケラボの現場は、静岡県東部におけるアートや表現教育の先鋒だと、私は信じている。スケラボで学んだ学生は逞しい。アートの力に体感として出会った。地域から生まれるアートを目撃した。「わからない」を受け入れて面白がる寛容性に目覚めた。それら全て、学校だけでは学べない学びだ。

アートを媒介に可能性を育む地域の学び舎として、今後もスケラボと若年層の関係づくりを注視してゆきたい。私もそして、ひとりの地域演劇人として、両者のより良い関係づくりと、そこから生まれる可能性のアートのために、力を尽くしたい。学校には限界がある。ならばこそ地域に何が出来るかが問われる。その答えのひとつを私は知っている。

——— 加藤剛史 (静岡県東部の演劇人)

中学を卒業したら、成績に応じて高校に選別され、自分の可能性が閉ざされるような息苦しさを覚えていた。答えが決まったことをできることが良いと評価されているような気がした。

夢を話すことがまわりにかっこ悪いと受け取られ、学校の先生やまわりの大人は固い、思いの共有が難しいと感じていた。はやく静岡を出て東京に行きたかった。

高校生の時、加藤先生を通じてスケラボの公演を見た。ラクーンは夜景がきれいで、音楽があって、ダンサーが躍っているのを見ていた。ダンスなのかバレエなのかよくわからない。自分にとって全く知らないジャンルのものだった。それを見てると自分の中にいろんな感受性があるな、というのに何回か通っているうちに気づいた。

パフォーマンスが楽しいというか、こういう表現があるんだという発見があったし、その当時疲れていたの、良い意味で疲れが取れる場所だと思った。

パフォーマーの話を知ると、自分がそのときに思っていたのと同じことを考えていて、自分にそういう力があるなと思って嬉しかった。いろんなことを普段たくさん考えなければならぬけれども、自分にとって心が空っぽになる時間、目の前のことに没頭できる時間が必要だと思った。

川上大二郎さんと知り合いになって「どうだった」と聞いてもらえて、交流が持てるからさらに行きたくなった。対等に話してくれる。こちらの言うことを関心を持ってきてくれる。私の意見を言っても受け止めてくれる。いろいろなことを感じ、話していると自分の本当の想いが形になって言葉にできる。

見るだけの世界だったのが、自分が出演することで新しい発見がたくさんあった。それでよりあの空間に愛着がわいた。スケラボはもちろん、そのすべてに対して。「もっとこの場所にいたいな」と思った。

LAND FES in 沼津に参加した。普段行く場所なのに、一緒に歩きながらダンスを見ることで、空間の利用、こういうところをこういうふうに使ったら楽しいんだろうな、こういうふうに使えるんだな、と思ったり、自分の知らなかった沼津を発見した。何も無いと思っていた沼津は、なんでも作れるからいいところなんだなと思った。

スケラボに出会って、演劇以外にも自分を表現できるし、それは東京に行かなくてもできるんじゃないかと考えるようになった。廃墟を使うとなると地方じゃないとできない。無理して都会に出たけれど、こっちに来たら劇場に来て、お金払って決められたところに座るだけになっちゃう。

「やっぱり沼津に居たいな。もっと違う沼津の顔が見れるんだな」と考えることが楽しみだったりして。

ものが多くて充実していること、人が多いことが幸せだとずっと思っていた。今東京の大学にいるけれど、すごく沼津に帰りたい。

人が少なくても何も無いから、まちの中で踊ることもできるし、何も無いから創造することもできる。物質的な豊かさじゃない豊かさが必要だな、と強く感じるのは、絶対にスケラボさんでの経験からだと思っている。

——— タドコロチヅル (大学生)





アーティスト と スケラボ

スケラボ × スケラボメンバー

実験の場所、挑戦の場所 そして次へつなげる場所

スケラボがパフォーマンスを観る土壌がない静岡県東部地域で活動始めるにあたり、地域の人に興味を持ってもらうために地元のアーティストとコラボレーションをすることは、当初から意識をしてきた。

2016年3月に初めて行った舞踏家の松岡大のパフォーマンスでも、熱海市出身の音楽家・巻上公一氏とのセッションを企画した。

アーティスト同士の出会いや、未知の掛け合わせで起こる化学反応を楽しむことも重要視している。

スケラボメンバーでもある沼津市出身の鈴木彩は、国際コンクールでの優勝経験もあるマリimba奏者だが、スケラボと出会ったことで即興演奏やパフォーマーとのセッションに挑戦し、活動の幅を広げている。

また、地元のスケラボスタッフの中には、観客として公演を見たことをきっかけに運営に参加し、なかなか地域で活かす機会を持てなかった自らの技術や能力を発揮したり、自分なりの実験的な表現を試す場となっている者も多く、そこで得た経験や人脈を本業や地域に還元している。

イラストレーターでお絵かき講座やグラフィックレコーディングを行ったサノユカシ、映像制作を一手に担当する磯村拓也、沼津で家業の印章業の傍ら、チケット販売や広報を担当する辻村聡子、カフェオープンの夢を抱き、イベントで自家焙煎のコーヒーを振舞うAKICHIコーヒーなど、アートとの出会いを楽しみながら、それぞれの得意分野でスケラボにコミットしている。

写真

左. 2019年「Nine Bells」より鈴木彩・松岡大 (Industra、チェコ・ブルノ)

1. 沼津の印章店「ハンノの辻村」では公演チケットを販売
2. 記録撮影をする磯村 (左)
3. 妄想相談会で出店する AKICHI コーヒー

4. サノユカシのグラフィックレコーディング講座

5. 空中音楽会で飯田将茂氏の映像作品とコラボする鈴木彩。この演出は当日のリハーサルで決まった。



新しい表現をともに生み出す場所

2016年に川上大二郎さんと出会ってすぐ、生まれて初めてダンサーさん(長井江里奈)とセッションをしました。それをきっかけに、生まれ育った沼津で何度も実験的な公演をしてきました。

6台のマリンバの内側でお客さんが鑑賞する「360° marimba」のアイデアは、「マリンバの内側で全身で音を感じてみたい」という川上さんの一言から実現に向かいました。赤ちゃん向けの作品に挑戦したいと言ったら、ベイビシアターにも関わる役者さん(中市真帆)とのコラボレーションを企画してくれました。スケラボは、自分がやりたいと言ったことを一緒に実現してくれます。

それまでの自分のソロコンサートでは、ただ楽器がステージに置かれ、そこにライトが合えば演出は終わりでした。しかし、スケラボでやるときは、照明、衣装、ビジュアルデザインまでこだわることができます。

また、松岡大さんなどのパフォーマー・演出家との出会いを通じて、体を使うような、聴くだけでなく、見て面白く作品作りにも興味が高まりました。広い意味でのパフォーマンス、ステージングアーツ……見たことのないもの、自分で見たいものを作っていきたいです。自分にそういう力があることを知ったことが、スケラボと出会ってからの大きな変化です。

今はヨーロッパを拠点に、演奏だけではなく演出にも挑戦しています。スケラボでの経験を通して、自分の作品やコンサートをつくるときに、舞台監督的な視点を得られるようになったと思っています。

新しいアイデアを沼津で試し、ヨーロッパで熟成するような流れができています。スケラボが作ってくれた作品のトレーラー映像を海外の人に見てもらうことで作品発表の機会を得たりと、世界で通じる感覚を持っているスケラボに助けられています。

————— 鈴木 彩 (パーカッショニスト)

アートに関わる視点の広がり

高校から大学院まで美術を学びましたが、地元の沼津ではアートに関わる仕事に就くことは難しいと思っていました。

スケラボを通じて、今まで知らなかったアートの仕事を経験しました。裏方の制作の業務や、海外公演のコーディネーターも近くで見ることができました。

スケラボに出会わなかったら、趣味で美術館や舞台公演に行くことはあっても、ずっとお客さんのままだったと思います。アートへの関わり方は十人十色で、いろいろあると今は思っています。

自分の印鑑の仕事でも、商品の魅力を伝えることを意識するようになりました。

また、サノユカシさんのイラスト講座をきっかけに、封印していたイラストや絵画制作も再開し、絵を描く楽しさを思い出しています。

出演者だけでなく、スタッフ皆でお客さんに楽しんでもらう場を作るのもアートなんだと気がきました。

————— 辻村 聡子 (スケラボメンバー)

自分を変えたスケラボとの出会い

初めてスケラボの公演を見たとき、音楽、ダンス、空間、すべてを全身で感じ、自分もその一部になったような感覚がしました。廃墟でのパーカッショニストとダンサーによる即興は、正面があるようなないような感じで成り立ち、観客と舞台の境目が無い空間で、ひとつのステージのなかにみんながいる。これはおもしろい映像が撮れるな、と感じました。

こんなすごいことを沼津でもやっているんだと、多くの人に映像で伝えたいと思いました。撮影者として、公演の魅力を伝えることを常に考えています。

スケラボの映像を見た人から、ダンスや音楽イベント、現代サーカスなど、東京や長野などからパフォーマンスやアートの映像の仕事の依頼が来るようになりました。

大学では映像やアニメーションを学びましたが、もともと出不精な性格で、生まれ育った沼津から出ようと思ったことは一度もありませんでした。不便がなく、とびっきりの刺激を求めなければ居心地のいいまちです。

しかし、スケラボのチェコ公演で生まれて初めてひとり飛行機に乗って、みんなで1週間行動したら、すっかり海外志向になり、自分の変化にびっくりしています。

————— 磯村 拓也 (スケラボメンバー / 映像作家)



▶ 2018年「360° Marimba for 6 players / re-creation」
静岡県立沼津視覚特別支援学校への招待コンサート

2019年「空中音楽会」赤ちゃん向けコンサートでは、アメリカ留学中のサノユカシが絵を描く手元を写した映像に合わせて演奏。▶

となりのアーティスト、チェコへ行く



© Vaiva Bezhan

日本らしさ、スケラボらしさを 海外の街角でも

2019年5月から6月にかけて、スケラボは約10日間のチェコ共和国ツアーを行った。内容は、4年に一度開催される世界最大規模の舞台芸術と劇場建築の国際芸術祭「プラハカドリエンナーレ2019（通称PQ2019）サイトスペシフィック部門への出演をメインに、3都市での公演、ワークショップである。

PQ2019に企画応募するにあたり、スケラボは「ENGI-MON（えんぎもん）」という新作パフォーマンスを制作した。

盆踊りをテーマにしたパレード作品で、「死者の供養」や「先祖への畏敬」といった日本人が古来より大切にしてきた価値観をチェコの人々と共有することをコンセプトとした。

「チンドン」による生演奏の中、舞踏家の松岡大とダンサーの及川紗都を筆頭に、約20名のパフォーマーたちがダルマやおカメがモチーフの着ぐるみをまとい、観客の匿名性を高める「お面」を配り、観客を

巻き込み上演する、極めて独自性の高いパフォーマンスとして評価された。

前年9月の静岡県内でのプレ公演（P10-13 参照）を経て、チェコ国内では2都市で「ENGI-MON」を上演、もう1都市（ブルノ）では別演目を上演し、プラハのカレル大学ではメンバーの美術家などが行灯作りのワークショップを行い、学生にもPQ2019本番公演に参加してもらった。

出演者、スタッフ総勢20名近くのチームを編成し海外ツアーを行うという初めての経験に四苦八苦しながらも、PQ2019の本番では観客と演者が一体となり大きな渦のように躍り狂う盛り上がりを作り出すことができた。

場所性や土着性にこだわりながら、演者と観客間の壁を取り払い、どこでも舞台にしてしまうというスケラボの特徴を顕した作品となった。

写真

1. PQ2019で観客を巻き込んで踊る「ENGI-MON」
2. プラハの街角で
3. PQ2019での上演
4. チェスケー・ブジェヨヴィツェでの上演



© Jan Hromadko



3

© Vaiva Bezhan



4

© Hedvika Drenceni





- 1. カレル大学ワークショップ
- 2. ワークショップ参加学生も衣装をつけてPQ2019本番上演に参加

© Vaiva Bezhan

ENGI-MON

Czech Republic Tour 2019



Cast & Crew
 Jun-Maki-Dou : Chindon performance
 Aya Suzuki : Percussion
 Dai Matsuoka : Dancer
 Sato Oikawa : Dancer
 Takemi Aoki : Mascot performer
 Kennosuke Sagawa : Mascot performer

Chiaki Nishikawa : Costume
 Sano Yukashi, Hato : Character design
 Hideaki Ikemori : Technical manager
 Chiye Namegai : Photo
 Takuya Isomura : Movie
 Satoko Tsujimura : Production
 Takafumi Sakyama : Overseas project manager

Dai Matsuoka : Director
 Daijiro Kawakami : Producer
 Sponsored by : Scale Laboratory

Partnered with
 KREDANCE,
 Charles University,
 Industra,
 Prague Quadrennial 2019,
 Embassy of the Czech Republic,
 Shizuoka Prefecture,

私たちの活動も5年目に入りました。
 やればやるほど、芸術、文化という枠がどこにあるのか、謎は増えるばかりです。
 謎が多いからこそ、我々はやり続けているのかもかもしれません。

私は、芸術に携わる活動を生業として生活しています。人によっては夢見がちな職業とおっしゃる方もいるかもしれません。最低限の衣食住が満たされて初めて芸術があるという考えの方もいらっしゃるかもしれませんが、ですが、芸術、文化は衣食住と切り離すものでないと思っています。
 人は、衣の役割以上にデザインを求め、食の役割以上に味や盛り付けを求め、住の役割以上に住み易さなどを求めます。
 もちろん、様々な側面で個人差はあります。また、好みの違いもあります。ですが、だからこそ、面白いのだと思います。

私たちは一人一人、別の個性を持って生まれてきました。
 全く同じ個性の人など誰一人いないでしょう。その個性が、自分の好みを探求するカギであり、自分で好みの何かを作る原動力でもあるのです。
 そういう力がなければ、我々はまだ、貝塚を作っていたでしょう。
 自分の個性に忠実な人が、自分の満足しうる何かを作り(わたしはそれをアーティストというのではないかと思うのですが) 誰かがそれを見て新たな発見をする。それはおそらく、有史以前から繰り返してきたことであります。
 あるものは踊り、あるものは絵を描き、あるものは歌を歌ったかも知れません。それは、全人類に直接影響を与えるわけではないかも知れません。
 でも、少しずつ全人類を変えていく行為なのかも知れません。
 壮大ですね。

アーティストたちが寄り添うのは、個性のある人類です。アーティストの行為や作品が、そのまま何かの効果になるかはわかりません。もちろん、直接的に変化を促す例もあります。しかし、私はゆっくり芸術、文化が人類に変化をもたらす1000年先がどう変わっているかを妄想するのです。

川上 大二郎 (Scale Laboratory 代表)



スケラボアートキャンプ・

アートサーカス

とことんデッサンナイト

2018.9.1-2 (オールナイト)

会場：アステール美術研究所 (三島市)
ゲスト：松下哲也 (國學院大学兼任講師・近代美術史)、荒木慎也 (成城大学兼任講師・近現代美術史、美術教育学)、ヌードモデル 司会：南大介

ENGI-MON

2018.9.21、22 会場：サントムーン 柿田川本館

参加アーティスト：ジュンマキ堂 (西里純子、黒田牧子、新井真有子、北園優)、松岡大 (舞踏家)、及川紗都 (ダンサー)、はと (美術家)、池森秀明 (映像プロデューサー) 等

360° Marimba for 6 players / re-creation

2018.11.9-11 会場：沼津ラクーン

出演：鈴木 彩、長坂 萌、高口かれん、篠崎陽子、三神絵里子、伊藤すみれ

鈴木彩ソロコンサート

2018.11.16、17 会場：沼津ラクーン

スケラボ感謝祭—ながめくらしつ「君がしまじま」& LAND FES in NUMAZU

2019.3.15、16、17

会場：沼津ラクーン、新仲見世商店街等

15日(金)ながめくらしつ「君がしまじま」

演出・構成：目黒陽介 出演：目黒陽介 / 谷口界 / ハチロウ / 安岡あこ

16日(土)「踊る商店街」

入手杏奈 (ダンサー) × 竹内直 (サクセス、フルート)、奥野美和 (ダンサー) × 田中悠字吾 (シタール)、飯森沙百合 (ダンサー) × 松本ちはや (パーカッション)

17日(日)「川と踊る日」

奥野美和 × 坂本弘道 (チェロ)、飯森沙百合 × 吉田隆一 (バリトンサクセス)、入手杏奈 × 巻上公一 (ヴォイス)

ENGI-MON チェコ公演 (P34 参照)

空中音楽会

2019.12.19-21 会場：沼津ラクーン

出演：SUN DRUM、林文彦、飯田将茂、原順子、サノユカシ (映像)

演出：松岡大、鈴木彩、川上大二郎

妄想 LIVE !

2019.12.21 会場：沼津ラクーン

妄想相談所 / スケラボ相談所

- 妄想相談所 テーマ：こども目線

2018.8.21 会場：大社の杜みしま ゲスト：落合祥子 (立川市子ども未来センター 市民活動コーディネーター)

- 妄想相談所 テーマ：松崎の未来

2018.8.29 会場：ふれあいとーふや (松崎町) ゲスト：松下理恵子 (デザイナー・BACCO)

- グラフィックレコーディング講座

2018.9.28 会場：沼津ラクーン 講師：サノユカシ (イラストレーター)

- 妄想相談所 テーマ：身近さの編集

2018.10.16 会場：大社の杜みしま ゲスト：古屋淳二 (編集工房虹霓社代表)

- プレゼンテーション講座

2018.11.28 会場：沼津ラクーン 講師：南大介 (お笑い芸人)

- 妄想相談所 テーマ：アートイベントで街をどうしたい？

2018.11.2 会場：壺中天の本と珈琲 (伊東市) ゲスト：平井宏典 (真鶴まちなれ ディレクター)

- 妄想相談所 テーマ：街の余白

2018.12.15 会場：みしま未来研究所 ゲスト：成瀬友梨 (成瀬・猪熊建築設計事務所)

- インプロ (即興劇) 講座

2019.1.20 会場：沼津ラクーン 講師：青木岳美 (パフォーマー)

- 妄想相談所 テーマ：地元を愉しむ

2019.2.16 会場：ジオリア (伊豆市) ゲスト：鈴木雄介 (伊豆半島ジオパーク 推進協議会専任研究員)

- 妄想相談所 テーマ：誇大妄想大会

2019.3.8 会場：みしま未来研究所

- スケラボチェコツアー報告会

2019.9.23 会場：dilettante cafe (三島市) トーカー：及川紗都 (ダンサー) 他スケラボメンバー

- スケラボ相談所 U25

2019.11.7 会場：みしま未来研究所

中市真帆さんと鈴木彩

読み聞かせ&即興演奏

2019.1.8、9 会場：ぼんぼん保育園3園、えほんやさん

巻上公一さんのヘンテコおなががかい

2019.2.22、2020.2.27

会場：ぼんぼん保育園4園、エシカファームはったばた園

長井江里奈さんのダンスワークショップ

2020.2.19、20 対象：静岡県立静岡城北高校演劇部、静岡県立伊東高校演劇部、長崎ぼんぼん保育園

エシカファーム×ワークショップ

- 動画を撮って番組を作ろう!

2019.8.5 対象：エシカファームはったばた園利用者

講師：磯村拓也 (スケラボ)

- コーヒーゼリーを作ろう

2019.8.26 対象：Cafe Arte 利用者

講師：AKICHI コーヒー (スケラボ)

- アルミホイル彫刻

2019.10.14 講師：中村一平 (造形家)

【その他】コラボレーション企画

SPAC × スケラボ『歯車』リーディング・カフェ & 感想カラーージュ

2018.10.21 会場：新井旅館

2018.11.25 会場：静岡芸術劇場

サントムーン柿田川新春展示&パフォーマンス

2020.1.3 「干支ネズミ芸曲団〜新春パレード」

出演 toR mansion、目黒宏次郎、鈴木彩 干支ねずみ制作：はと、渡邊純、近藤正樹

サントムーン新棟「オアシス」オープン記念パフォーマンス

2020.3.10 出演：ジュンマキ堂、サガワケン/スケ他



スケラボチャンネル



活動履歴 2016 ~

Scale Laborator :

川上大二郎

石川晃子 石川琢野 磯村拓也 サノユカシ 鈴木彩 住麻紀 辻村聡子 十河涉 松岡大 南大介

Special Thanks :

静岡県文化プログラム推進委員会 沼津市商工振興課 三島市文化振興課

アステール美術研究所 あたコレ実行委員会 熱海未来音楽祭 新井旅館 絲 concept 伊豆半島ジオパーク推進協議会
NPO 法人エシカファーム おだわら城町アートプロジェクト 加和太建設株式会社 加藤学園高等学校 壺中天の本と珈琲
サントムーン柿田川 静岡県立伊東高等学校演劇部 静岡県立静岡城北高等学校演劇部 ジュンマキ堂 スキマcinema
第一ダンボール株式会社 大社の社みしま DHARMA 沼津 ながめくらしつ 沼津コーストエフエム 沼津視覚特別支
援学校 沼津新仲見世商店街 NUMAZU DESIGN CENTER 沼津ラクーン 母力 Pj. ぼんぼん保育園 まりあ保育
園 みしま未来研究所 (一社) レンスケープ #dilettantcafe&walts./ Eatable of Many Orders / EL PASITO /
EN / ON Safari / SUNDRUM / to R mansion /Department of Art Education Faculty of Education Charles
University / INDUSTRA / KREDANCE / Prague Quadrennial 2019

青木岳美 安藝悟 阿部ちさと 新居幸治 新居洋子 新井真有子 荒木慎也 安藤誠 飯田将茂 飯森沙百合 井草雅彦
池森秀明 伊藤すみれ 伊藤真幸 入手杏奈 内田稔子 上松まり代 榎昭裕 江波戸健 及川紗都 大澤豊 大木真実
大津英輔 大塚徹 大橋康之 大平太一 奥野美和 奥村優子 落合祥子 小和田尚子 片岡佐知子 風間康寛 加藤剛
史 北園優 北本麻理 木村雅章 黒田牧子 古屋淳二 近藤正樹 坂田芳乃 坂本弘道 佐川健之輔 崎山貴文 笹間敦
篠崎陽子 四宮浩司 四宮優子 嶋谷浩治 鈴木勝矢 鈴木健司 鈴木享 鈴木博子 鈴木雄介 住康平 高口かれん 高
野恵子 高橋裕一郎 高橋聖子 竹内直 館野茂樹 田中善久 田中悠宇吾 塚本春菜 友田修 長井江里奈 中市真帆
長坂萌 中島清高 中村一平 中村友海 中村康宏 行貝チエ 成瀬友梨 西川千明 西里純子 西島俊則 はせみきた は
と 原順子 原口佳子 林文彦 平井宏典 藤井絵 藤井さやか 古原彩乃 降矢一美 堀内祐二 巻上公一 巻上文子
松井真理子 松下哲也 松下理恵子 松本ちはや 松本有加理 丸山武彦 三神絵里子 三浦あさ子 水口健司 村上正和
村上萌 目黒宏次郎 ヤマザキヨーコ 山貴理恵 雪岡純 吉田隆一 渡邊和之 渡邊純 渡辺真也 渡邊尚志

Kristýna Břečková / Veronika Brunová / Hedvika Drenčeni / Katerina Fojtikova / Marie Fulková / Pettinger Jan /
Sophie Jump / Jan Pfeiffer / Michal Sedlák / Pavel Stratil / Jevhenija Vachničenko

【静岡県文化プログラム】

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、オリンピック憲章で開催が
定められた「文化プログラム」が、日本全国で展開されます。

静岡県文化プログラム推進委員会は、文化・芸術振興や文化・芸術による地域・社会
課題対応を目指して、様々な団体等との協働による取組を進めています。



スケラボ「となりのアーティストプロジェクト」

発行日 2020.3.23

発行 Scale Laboratory

編集 / デザイン 住麻紀 (Scale Laboratory)

写真 行貝チエ、磯村拓也、木村雅章 (ながめくらしつ、LAND FES in 沼津)

編集協力 高橋聖子

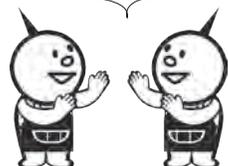
<http://scalelabo.jp> info@scalelabo.jp



スケラボ



最新情報とアーカイブはSNSで！



デジタルサウンド

ホールサイト3

2018 9.1 SAT 13:00 - 9.2 SUN 7:00

アスターホール音楽芸術館 札幌市中央区南一条西五丁目1番1号

ENGIMON

SHUJUKA

Aya Suzuki presents

360° Marimba for 6 players / re-creation

SHUJUKA

360° Marimba

2018.11.8 FRI 19:00
11.10 SAT 18:00
11.21 SUN 18:00

札幌市中央区南一条西五丁目1番1号 アスターホール音楽芸術館

SHUJUKA

Aya Suzuki Solo Concert

スケラボ感謝祭

妄想がまちへダイブ

2018.3月15日(日) 14:00-17:00
16日(日) 14:00-17:00
17日(月) 14:00-17:00

会場: 札幌市中央区南一条西五丁目1番1号 アスターホール音楽芸術館

スケラボ チェコツアー 報告会

2019 9.23(日) 18:00

札幌市中央区南一条西五丁目1番1号 アスターホール音楽芸術館

空中音楽会

2019.12.20(木) - 22(土)
22(日) 札幌市中央区南一条西五丁目1番1号 アスターホール音楽芸術館

スケラボの初夏の合宿!!

2018年 5月5、6、7日

千支ネズミ音楽団 ~新春ハレード~

1月3日
サントムーズ梅田川
11時 - 19時 00分

